

新基地建設反対名護共同センターニュース

浦添初の女性市長誕生へ 伊礼ゆうき候補が猛追！



社民党カーから「女性市長を」と訴える照屋大河県議(24日)

一方、自民党本部は現職事務所に23日から職員を派遣。しかし、候補本人は「完全無所属・市民党」を強調するなど不人気の菅政権との距離を置くポーズを示しています。伊礼ゆうき勝利をめざして全県、全国からのいっその支援が求められます。

浦添市長選(31日告示、2月7日投票)の情勢は、「オール沖縄」の伊礼ゆうき予定候補と支持者の大奮闘で自民党が推す現職を猛追しています。
2階から「頑張ってください」と支援
23日と24日の土日作戦では宣伝カーやハンドマイク宣伝で過去最高の市内1千力以上のポイントで宣伝。通行中の市民が手を振ってくれたり、2階の窓から「頑張ってください」と応援してくれるなど日増しに反応がよくなっています。



↑上の写真＝うるま市内で訴える右から仲村未央県議、伊礼ゆうき氏、比嘉京子県議、高良鉄美参院議(社大党委員長)。←伊礼氏と赤嶺政賢衆院議員(共産)。いずれも23日



「オール沖縄」の共闘エンジンが全開

「辺野古に陸自も常駐」海兵隊の極秘合意

沖縄タイムスと琉球新報は25日、陸上自衛隊と米海兵隊が辺野古新基地に陸自の離島防衛部隊「水陸起動団」を常駐させることで2015年、極秘で合意していたことが24日わかった、と報道しました。

辺野古新基地の恒久基地化に道

タイムズ紙は、水陸起動団はオスプレイが使う滑走路や水陸両用車が海自輸送艦に乗り込む岸壁、上陸訓練用の砂浜など兼ね備えているキャンプ・シュワブは絶好の配備先となり、普天間にはない辺野古の環境が「日米共同使用の最新鋭基地」化を招いた。今後、国際情勢の変化で海兵隊が撤退する日が来ても陸自はとどまり、新基地は恒久的に使われる可能性が高い。しかし、沖縄の反発を恐れる政府は一切説明していない。と批判しています。



日米軍事一体化の現れ

仲山忠克弁護士(沖縄県革新懇代表世話人)の話「日米地位協定2条4項(米軍基地の日本の利用)に基づくもので私は予測していた。日本は米軍と一体化し、沖縄を米国の世界戦略の足場にしようとするもので許せません」。

緊急事態宣言中の抗議活動は休止

沖縄県が2月7日まで緊急事態宣言期間とすることと発出したことを受け、「オール沖縄会議」は1月20日(水)と2月5日(金)の抗議活動を休止することを決めました。活動休止の場所は①辺野古ゲート前、②安和、③塩川、④海上、⑤浜のテント。抗議活動の再開は緊急事態宣言が解除以降となります。

資金カンパご協力をお願い 当共同センターの運営がピンチに

1年前からのコロナ感染症の拡大で辺野古新基地建設反対運動も困難を強いられています。本土からの支援者が「駆けつけたくとも行けない」人が多く、支援カンパが極端に減少しています。このため、当ニュースを発行する名護共同センターの事務費など諸経費を賄うことが厳しい状態に陥っています。このため、皆さんにカンパのご支援を訴えさせていただきます。ご協力をよろしくお願いいたします。

新基地建設反対名護共同センター 共同代表 具志堅徹

【郵便振込口座】

口座記号番号：01710-0-166221

加入者名：新基地建設反対

名護共同センター

辺野古新基地建設作業を直ちに中止せよ！



(写真は21日朝のゲート前。緊急事態宣言や基地内で感染者が出て作業車が数珠つなぎ)

私たちは要求する。キャンプ・シュワブでの新基地建設を直ちに中止せよ！それが今、管内閣の「県民に寄り添う」言葉の実践の第一歩である。

沖繩を憲法番外地にするな！ 私たちは要求する。キャンプ・シュワブからマスク未着用の米兵が街に繰り出す姿をよく見かける。アメリカ本国での感染爆発をみると、海兵隊の基地が集中する沖繩県民は米軍が引き起こす事件・事故・犯罪に悩まされながら、さらにコロナ感染の拡大に脅かされている。いつまで日本政府は県民の命と健康、安全を脅かすのだろうか。

マスコミ報道によると、1月20日に米軍キャンプ・シュワブ内で新たに43人の新型コロナ感染者が出た。にもかかわらず、新基地建設の作業は沖縄県の緊急事態宣言の中続けられ、大量のダンブ、生コン車が搬入され土砂が辺野古の海に投げ込まれている。

シワフブ内で新たに3人の感染者へり基地反対協議会は21日、安次富浩共同代表名で以下の「声明」を発表しました。

シワフブ内で新たに3人の感染者へり基地反対協議会が声明